

顔への長期ステロイド使用後に全身症状を経て睡眠が戻った成人アトピーの経過 (27 歳)

症例 ID：001-20-KMn | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

高校 2 年頃、顔のニキビ治療で複数の外用薬を使い始めた後、顔にかぶれとかゆみが出ました。ステロイド外用薬を継続し、薬を止めると再びかゆくなる状態となりました。

次第に顔の色が変わり、かゆみは首、腕、足へ広がりました。別の医療機関では注射治療も受け、一時的には落ち着きましたが、使用を止めると再び悪化しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	顔を中心に複数のステロイド外用薬を反復使用し、注射治療も受けました。
製品名	不明です。
強度	次第に強い外用薬へ変更されました。
使用期間	高校 2 年頃から 1998 年 11 月の受診までです。
中止時期	1998 年 11 月の松本医院受診時に中止しました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
高校 2 年頃	来院前	顔の外用治療後にかぶれとかゆみが出始めました。
その後	長期使用	ステロイド外用と注射を繰り返し、症状が首、腕、足へ広がりました。
1998 年 11 月	治療開始	松本医院を受診し、ステロイドを中止して治療を開始しました。
治療初期	ピーク	顔や全身を掻くと傷と多量の浸出液が出て、瞼が強く腫れました。
開始後 2 か月頃	初期変化	掻いても腫れや浸出液が出にくくなりました。
開始後 6 か月頃	生活変化	夜中にかゆみで目を覚ますことがなくなりました。
開始後 1 年半頃	経過後	顔と首に軽い症状が残るものの、全身のかゆみはほぼなく、皮膚色も戻ってきました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始直後に顔と全身から浸出液が出て、瞼が強く腫れ、衣類が濡れる状態となった時期です。

5. 困りごと

- 顔と全身の浸出液で衣類が濡れ、臭いも強くなりました。
- 瞼が腫れて外見が大きく変わり、精神的負担がありました。
- 夜間のかゆみで睡眠が妨げられていました。

6. 経過のまとめ

治療開始後は顔と全身の強い腫れ、傷、浸出液を経験しましたが、約 2 か月で腫れと浸出液が出にくくなりました。

約 6 か月で夜間に眠れるようになり、1 年半時点では汗をかいた時の首のかゆみと軽い色調変化を除き、全身の症状は大きく減っていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。